

たまねぎレポート【347号】



平成28年9月26日

阪南青果株式会社

社 内 報

8月は、北海道、東北では、台風7号、11号、9号、10号が相次いで接近、上陸し甚大な風水害が発生した。平均気温は、沖縄・奄美でかなり高く、北・東・西日本でも高く、各地で35℃以上の猛暑日数を更新した。降水量は、北日本でかなり多く、東日本の太平洋側でも多かった。西日本の太平洋側と沖縄・奄美で少なかった。北日本の太平洋側の月間降水量は、平年比231%で最多を記録した。日照時間は、北日本の日本海側と西日本でかなり多かった。

9月にも台風の接近、上陸があり、20日には16号が大隈半島に上陸したあと紀伊半島に再上陸、九州地区などで風水害の被害が発生した。8月、9月は北日本と九州は台風による厄月であった。

気象庁が発表した10～12月の3カ月予報では、此の期間の平均気温は、北海道・東北では平年並み亦は高く、降水量は、平年並み亦は多い。関東、北陸、東海は、10月の気温は高く、12月は平年並み。近畿以西では、10月の気

温は高いが、12月は平年並みか低い。月別予報は次の通り。

10月、全国的に天気は数日の周期で変わる。北日本の太平洋側と西日本では平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が少ない。気温は、北日本で平年並み亦は高い確率40%、東・西日本と沖縄・奄美では高い確率50%。降水量は、沖縄・奄美で平年並み亦は多い確率はともに40%。

11月、北日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨亦は雪の日が多い。東日本の日本海側では、平年と同様曇りや雨の日が多い。西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。北日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。東日本と西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様曇りや雨の日が多い。平均気温は北日本で平年並み亦は高い。降水量は、北日本で平年並み亦は多く、西日本では平年並み亦は少ない。

12月、北・東・西日本の日本海側では、平年と同様曇りや雪亦は雨の日が多い。北日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。東・西日本の太平洋側では平年と同様晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。気温は、西日本と沖縄・奄美で平年並み亦は低い。降水量は、北日本と西日本の日本海側で平年並み亦は多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

8月の主要市場の野菜の入荷は、市場別には多少のバラツキがあるものの、総じては前年比増で、平均価格は前年を下回った。札幌市場の入荷は前年比97%、平均単価はkg¥189前年比101%。東京市場の入荷は前年比103%、平均単価はkg¥235前年比88%。名古屋市場の入荷は前年比100%、平均単価はkg¥230前年比91%。大阪本場の入荷

は前年比104%、平均単価はkg¥233前年比90%。福岡市場の入荷は前年比111%、平均単価はkg¥191前年比94%となっている。

8月の玉葱の入荷はまちまちであったが、府県産が例年より早く終盤を迎えたことや、月後半の北海道が台風による強風や大雨の影響で収穫、出荷が後ズレしたことで総体的には前年比減となった。札幌市場の入荷は5,810トン前年比133%、市況高から早出し有利のムードから近隣産地の個選物の入荷が増加した。平均単価はkg¥135前年比134%。東京市場は9,412トンの入荷で前年比91%、平均単価はkg¥170前年比127%。名古屋市場の入荷は3,452トン前年比91%、平均単価はkg¥177前年比127%。大阪本場の入荷は2,944トン前年比101%、平均単価はkg¥199前年比144%。高値の淡路物のウエイトが高く平均値を押し上げた。福岡市場の入荷は3,592トン前年比134%、北海のヒネ物の入荷があり、北海物が前年比倍増したことで数量増となった。平均単価はkg¥173前年比132%となっている。

日本農業新聞社が集計した、全国主要7地区の代表荷受7社の、主要野菜14品目の8月の販売量は、87,622トン前年比109%(前月比111%)。平均単価はkg¥143前年比91%(前月比88%)となっている。販売量が前年比増となった品目はピーマン(前年比128%)、トマト(112%)、キュウリ(111%)、タマネギ(108%)など9品目。前年比減は、サトイモ(前年比78%)、ダイコン(94%)、レタス(95%)など5品目。価格が前年比高となったのは、タマネギがkg¥165で前年比34%高、サトイモがkg¥435で12%高、ジャガイモkg¥138で7%高など3品目。前年比安となっているのは、ハクサイがkg¥59で前年比39%安、ピーマンがkg¥210で38%安、キャベツがkg¥68で30%安など10品目となっている。たまねぎは、全国的には品薄高であったが、主要市場の代表荷受の集計では数量増の単価高となっている。

東京都中央卸売市場の8月の野菜の入荷は、128,499トン前年比103%

(前月比103%)であった。主要品目で前年比増となったのは、トマトが前年比119%であったのを始め、ハウレンソウが114%、ピーマンが113%など9品目(前月は4品目)。前年比減となったのは、サトイモの前年比83%を始め、タマネギが91%、ダイコンが92%など6品目(前月は11品目)。平均単価はkg ¥235前年比88%(前月比89%)で、前年・前月比とも2桁安であった。旬別の平均単価は、上旬¥238、中旬¥232、下旬¥234で月間の市況は横這いであった。

東京都中央卸売市場の8月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	128,499	102.5	107.4	235	88.1	88.7
た ま ね ぎ	9,412	90.9	117.1	170	127.1	99.4
キ ャ ベ ツ	16,486	105.3	101.6	70	67.9	95.9
ト マ ト	10,663	118.8	135.6	262	89.1	81.4
だ い こ ん	8,636	91.8	104.3	118	97.3	99.2
ば れ い し ょ	6,503	93.7	115.9	147	111.0	85.0
き ゆ う り	9,054	111.2	132.5	208	72.1	64.2
に ん じ ん	6,700	101.0	109.3	145	87.2	96.7
レ タ ス	10,216	106.9	102.0	145	73.3	111.5
は く さ い	6,024	96.0	104.2	57	49.6	105.6
か ぼ ち ゃ	2,529	102.3	93.7	216	90.9	101.9
な が い も	1,006	87.0	93.0	427	114.8	103.1
れ ん こ ん	479	89.5	232.5	597	103.0	63.0
に ん に く	278	86.0	101.5	1,059	105.7	106.8

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の8月の玉葱の入荷は、9,412トン前年比91%(前月比117%)で依然品薄傾向が続いた。8月は府県物から生育が前進化していた北海物に移行し、品薄高が順次解消されると予想されていたが、相次ぐ台風の影響による水害で収穫、出荷が後ズレしたほか、作柄も下方修正され入荷は予想を下回った。北海物の入荷は5,450トンで前年比93%、占有率は58%で前年比1ポイントアップ。兵庫物の入荷は2,016トン前年比93%、占有率は21%で前年比0.5ポイントアップ。中国物は1,296トンの入荷で前年比192%、占有率は14%で前年比7ポイントアップ。平均単価はkg¥170前年比127%(前月比99%)で引き続き市況高で推移した。産地別価格は北海道物はkg¥164前年比139%、兵庫物はkg¥237前年比134%、中国物はkg¥88前年比90%となっている。

9月に入り、台風の影響で月初めは北海物の入荷が少なく、品薄高が続いたが、日を追って停留していたJRコンテナ便やトラック便が到着し、入荷は日毎に増加した。品薄感も順次解消され、市況はざり安に転じ、売れ残りが始まった。北海物は、今年も早生系の球流れは大粒傾向で、2L、L大の比率が高く、台風による湿害で荷口毎の品質にムラがあり、買参人の買い控えの動きが強まった。月半ばには、高値が続いた反動で荷動きが更に鈍化し、荷受サイドでは成り行き販売を試みるも捌き切れなくなった。特に、2L、L大の販売に各社とも苦戦した。今週に入り、ホクレンの希望価格が¥2,000に下がり、値頃感が強まったが、小売の引き合いは弱く荷動きは鈍い。各社とも入荷を抑制しながら勉売しているものの、市場在庫は増加傾向で、水害の影響で品質劣化が見受けられる品物もあり、早期販売を意図するも受け皿探しに苦労している。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の8月の玉葱の入荷量は、3,439トン前年比91%（前月比98%）と減少傾向で、主力は兵庫物から北海物に移行したが、品薄高が続いた。北海物の入荷は1,975トン前年比99%、占有率は57%で前年比5ポイントアップ。兵庫物の入荷は1,066トン前年比72%、占有率は31%で前年比8ポイントダウン。愛知物は212トンの入荷で前年比136%、占有率は6%で前年比2ポイントアップ。平均単価はkg ¥176前年比127%（前月比111%）で堅調に推移した。産地別の平均単価は、北海物はkg ¥163前年比136%。兵庫物はkg ¥238前年比136%。愛知物はkg ¥63前年比100%となっている。

9月に入り、台風の後遺症で乱れていた北海物の輸送が、JR 便やトラック便が回復し、入荷は日を追って増加し、品不足は解消された。市況は¥3,000台から¥2,000台に値下がりし、荷動きは回復傾向となった。月半ばには、市況は¥2,000前半まで値下がりしたものの、転送物に割安の品物が出回り、価格維持が困難になった。先安ムードが支配し、買参人に買い控えられ、荷動きが鈍化し荷凭れ傾向となった。先週の休市明けから、ホクレンの希望値が値下がりし、2L、L大の動きに回復が見られるものの、Lの動きが鈍化傾向となった。全国的に潤沢な出回りとなったことで、転送屋が市場価格を下回る安値で、仲卸に売り込みをかけ、場外取引が増えていることを懸念している。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の8月の玉葱の販売量は、2,944トン前年比101%（前月比97%）となっている。市況高を牽引している市場と認識され、北海物の入荷が多かった。主力の兵庫物の入荷は1,493トン前年比87%、占有率は51%で前年比8ポイントダウン。北海物は1,300トンの入荷で前年比162%、占有率は44%で16ポイントアップ。中国物は73トンの入荷で前年の12倍。占有率は3%弱で前年比3ポイントアップ。平均単価はkg ¥199前年比

144%(前月比106%)で高値を更新した。産地別の平均単価は兵庫物はkg ¥233前年比145%。北海物はkg ¥170で前年比146%。中国物はkg ¥87で101%となっている。

9月に入り、月初めは北海物の入荷が少なく、淡路物、北海物ともに品薄高で、仲卸には割り当て販売となり、品不足が深刻化した。JRのコンテナやトラック便の復旧と共に、北海物は値下がりに転じたが、入荷増が期待出来ない淡路物は堅調相場が続いた。月半ばには品薄の淡路物は一段高で10kg、L・M ¥3,000相場が定着した。反面、北海物の入荷は順調で、荷動き鈍く20kg、L大 ¥2,500~2,200、L ¥2,700~2,500の動きで、京浜市場に比べ高値水準であったが、買参人の間では ¥2,000相場は時間の問題とのムードが強まった。此処に来て、淡路物は、入荷が少なくもがきの状態。北海物は、入荷を抑え需給調整をしているものの、L大・Lともに ¥2,000、M ¥2,300が中心相場で弱保合の展開になっている。値頃水準となったことで、業務筋の給食向けや量販店向けの買いが入り、それなりに捌けているが、先安ムードは解消していない。

福岡市場

福岡市中央卸売市場(福果)の8月の玉葱の販売量は、3,592トン前年比132%(前月比116%)で前年比前月比ともに大幅増であった。九州地方の拠点市場として品不足を察知し、集荷産地の多様化と地方市場への分荷に努め、集荷産地は14地域に及び、集散市場の面目を発揮した。主力は北海物で、北海物の入荷は1,206トンで前年比243%、占有率は34%で前年比16ポイントアップ。兵庫物は758トンの入荷で前年は入荷なし、占有率は21%。長崎物は534トンで前年比120%、占有率は15%で前年比2ポイントダウン。佐賀物は321トンの入荷で前年比27%、占有率は9%で36ポイントダウン。中国物は279トンの入荷で前年比97%、占有率は8%で前年比3ポイントダウン。平均単価はkg ¥173前年比132%(前月比117%)で堅調に推移した。産地別

の平均単価は、北海物がkg¥168前年比131%。兵庫物がkg¥241前年は入荷なし。長崎物はkg¥152前年比118%。佐賀物はkg¥165前年比111%。中国物はkg¥83前年比99%となっている。

9月に入ってから、月初めは台風の後遺症で北海物が入荷は少なく、高値を維持したが、輸送が正常に復帰するとともに入荷は日々増加した。入荷増に伴い九州管内の品不足が解消され、北海物は値下がり相場となった。長崎、愛媛物は週間2～3回の入荷で、量的に少なく高値を維持した。月半ばには、地方市場にも北海物が行き渡り、荷動き鈍化で在庫が増加した。現在も長崎物はこだわり筋の引き受け先があり、高値販売が続いているが、北海物は安値にはなったものの転送、小売ともに引き合いが弱く、市場内やコンテナヤードの滞貨が増加している。

9月24日(土)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷356トン、弱い

北海道 20kgDB2L¥1,500～1,150、L大 ¥2,200～1,300、L ¥2,200～1,400、
M¥1,550～1,500。

北海道 20kgNT2L¥1,200～1,000、L大 ¥1,300～1,200、L ¥1,400～1,300、
M ¥1,400～1,250。

【太田市場】 入荷256トン、保合

北海道 20kgDB2L¥1,600～1,200、L大 ¥2,000～1,700、L ¥2,000～1,800、
M ¥2,000～

【名古屋北部】 入荷208トン、弱い

北海道 20kgDB2L¥1,500～1,400、L大 ¥2,000～1,700、L ¥2,000～1,800、
M ¥2,000～

【大阪本場】 入荷101トン、弱い

北海道 20kgDB2L ¥1,800～1,500、L大 ¥2,200～1,800、L ¥2,200～2,200、
M ¥2,300～

兵庫 10kgD2L ¥2,700～2,400、L ¥3,000～2,600、M ¥3,300～3,000。

福岡市場】 入荷119トン、保合

北海道 20kgDB2L ¥2,000～1,500、L大 ¥2,300～1,800、L ¥2,500～2,000、
M ¥2,500～2,300。

長崎 10kgD2L ¥3,200～3,000、L ¥3,000～2,800、M ¥3,000～2,600。

富山 20kgD2L ¥2,800～2,600、L ¥2,800～2,600、M ¥2,800～2,500。

供給(産地)の動き

9月は、北海産の出荷が本格化する時期だが、8月後半の相次ぐ台風の影響で長雨となり、道東や十勝地方では大雨による河川の氾濫で、田畑の流失、水没被害が広範囲に亘り、被害面積は12,310haに及んだ。家屋の流出、浸水や鉄道、道路の被害も深刻で激甚被害に指定された。玉葱の被害は300haとされているが、長雨による湿害面積は測り難く、収穫・出荷も大幅な遅れとなった。従って、9月前半の出荷は計画を大幅に下回り、月後半になり漸く平常に近い状態に復帰した。10月はほぼ前年並みの出荷に復帰すると見ている。

府県の冷蔵物は前年より少ないが、輸入物は関係国自体のマーケットが軟調で、前年よりも増加すると見ている。

府県産地

府県産地の即売物の出荷は殆ど9月で終了し、主産地の淡路島では既に冷蔵物に移行している。全国的な冷蔵物の入庫は15,000トン前後の予想で前年比85%前後と見ている。冷蔵物は品薄高が続いているが、冷蔵業者の多くは、今年も原価高で、現在の市況水準以下では採算に乗らないと話している。此の先も、相場眺めの出荷が続くと予想している。

北海道産地

北海道の玉葱産地では、台風による水害は網走、十勝に集中しており、被害直後に端野、常呂地区に現地入りしたが、流出、水没の圃場では玉葱の腐敗臭が漂い、惨憺たる状態で見舞いの言葉も見当たらず、ひたすら復旧を祈るだけであった。自然の脅威に為すすべのないことを実感させられた。空知、上川は水没、冠水の被害は少なく、ほぼ平年の出荷に復帰している。10月は遅れていた網走、十勝の収穫・出荷が本格化することで、出回り量は豊作であった前年並みに近づく。今年の作柄は総じては前年を下回るものの、平年作をやや上回ると見ている。現在も球流れは大粒傾向で2L、L大の比率が高い。なお、今年の早生系は、格外の発生率が高い。此の先、中晩生になれば多少は小粒になり、品質も安定すると期待している。

外国産地

8月の輸入は、速報値で、27,962トン前年比121%になっている。7月は速報値では30,090トン前年比98%であったが、確定値は32,104トンで前年比119%で7月から前年比増となっている。現在、日本のマーケットも値下がり傾向だが、主力の中国、アメリカともに国内マーケットは不振で、日本向け輸出が増加傾向にある。8月の国別輸入量は、中国が25,675トン前年比115%。アメリカが1,271トン前年比669%、オーストラリヤが456トン前年比97%。ニュージーランドが227トン前年比355%となっている。直近に中国、アメリカ産地を訪問した商社の報告は次の通り。

中国、主力産地の作柄は平年作かやや下回るものの、国内マーケットは軟調で、現地価格は値下がり傾向である。産地では集荷・販売競争が激しい。昨今運賃の上昇で日本向けムキ玉20kgの価格は、C&F・\$5.6の水準である。

アメリカ、貯蔵性玉葱産地の収穫は8月後半から始まったが、好天に恵まれ収穫は順調に進み、球肥大も良好で球流れは大粒傾向である。ただ、生育期の気温変動が大きかったためか抽苔の発生率が高い。パッキング時に抽苔が

混入する懸念があり要注意である。現在の現地相場は、J、Mとも50¢ \$6.0の水準で、再生産ギリギリの最低価格であるとのこと。

10月の市況見通し

北海道産は台風被害で、生産・出荷量は下方修正されることになるが、秋冬季の需給バランスに大きな変化はないと見ている。北海物の出回り量は前年をかなり下回ると思考されるが、昨年は23,000トンの輸出があったし、中国、アメリカのマーケットが堅調で、10月～翌年4月の輸入は前年比68,000トンも減少した。今年は輸出が見込めないほか、輸入物は廉価で前年を20%程度上回る動きにある。また今春、北海物のヒネ物が前年比30,000トン程度残ったことを考慮すると、需給は楽観出来る状態ではない。10月市況はL大・L ¥1,700～1,500の平年並みを予想。(了)

(了)